

+2011 安全衛生 研修会

安全職場の拡大に向けて

2011.6.24 「2011 安全衛生研修会」 JUKI松江へ 21 企業 55 名が参加

取組説明「JUKI松江(株)における安全衛生活動について」

安全第一に考える経営をめざして

働く我々の環境は必ずしも安全とは言えない場合がある。人を大切にする働き方の基本は安全。自分達の職場を見てもらって、至らない点をアドバイス頂きたい」と職場点検を要請した。続いて、受入れ企業を代表して



▲工場内の安全対策や製造工程など見学

JUKI 松江労組の細木芳治委員長は「ものづくり現場で安全。自分達の職場を見てもらって、至らない点をアドバイス頂きたい」と職場点検を要請した。続いて、受入れ企業を代表してあいさつしたJUKI 松江(株)池田尚志代表取締役社長は、「経営者として利益に繋がる生産性は重要。しかし、命に繋がる安全を第一に考える経営を心掛け、昨年2件あった労災を今年は絶対にゼロ件にしたい」と述べた。



▲JUKI 松江(株)の池田社長

和田英昭常務取締役から「当社における安全衛生活動について」と題して、JUKI 松江(株)のリスクアセスメントの取り組みやHK K活動と称したヒヤリハット+危険予知の提案活動での実績が紹介された。工場見学では、加工～出荷工程まで作業内容や安全管理状況を見て回った。

基調講演「労働安全マネジメントシステムについて」

出来ることから確実にやっていく



▲講師の米田育郎氏

基調講演では、米田労働安全コンサルタント事務所の米田育郎氏を招いて「労働安全衛生マネジメントシステムについて」と題しOSHMSの概要から導入状況、アンケート結果から見る課題について講演を受けた。米田氏は「企業における安全衛生活動はリスクアセスメントまで展開が大半まで進んだ。しかし、安全衛生マネジメントシステム導入は遅々として進まず。取り組みに当たっては、全てを一度に行わず出来る事から一つひとつ確実にやって行く事が重要」と説明した。

問題点はわかりやすく、優先順位を決めて

安全衛生活動の取組み紹介として、山崎和憲さん(明治製作所労組)は「安全パトロールでの指摘は重要度・頻度で点数化し改善する。絵や写真等でわかりやすくして周知をしている」と説明。生部達也さん(日圧ST労組)も「期首に方針を立て、リスクを数値化し優先順位を決めて解決する」などが報告された。この他、奥本雄介さん(大鳥機工労組)からは「暑さ対策」の質問。「スポットクーラーの冷気を扇風機で循環させる」や「梅干しや塩飴を職場に置く」など参加者からアドバイスを受けた。最後に、堀内幹夫労働政策委員長から「JUKI 松江(株)のHK K活動など独自の取組みは大変参考になった。これからの暑い時期は、安全衛生面において最も注意しなければならない。この研修会で学んだことを、各自の職場で活かして欲しい」と締めくくった。



▲説明を真剣に聞く参加者

議席確保に死力を尽くせ

JAM山陰は、7/29に第8回執行委員会を松江市労働会館で開催。2012年度方針に向けた報告と議論経過の説明と、間近に迫った松江市議会議員増員選挙の情勢

2011.7.29 第8回執行委員会ほか

と体制強化を主議題に協議した。多久和執行委員長は「自動車サプライチェーンの操業調整も一段落。一方で電力供給の対応による休日変更は、混乱をきたし効果は定かではない。まだまだ震災の影響は続き予断を許さず対応して行こう」とあいさつした。中央執行委員会や全国書記長会議の報告では、経済・社会の転換期における産別の使命を果たすべく策定された「2012・2013年度の運動方針(案)」の説明。協議事項として、松江市議増員選挙の情勢報告と組織内議員必勝に向けた体制強化を検討。対立候補の顔ぶれから非常に厳しい闘いは必至であり、残された期間を全力で取り組むことが確認された。この他、外部役員就任に関する考え方の協議、役員選考委員会の中間報告がされた。単組・企業状況では、組織存続問題を抱える単組や新規加盟に向けた取り組みなど報告された。また、執行委員会の前後で開催された委員会では、2012年度予算の検討を総務財政委員会、2011春闘総括案の検討は労働政策委員会で行ない、第13回定期大会に向けた準備が進められた。



誰もが一緒に楽しめる企画を

2011.6.25
青年協第4回幹事会

JAM山陰青年協議会は、三菱農機労働会館で第4回幹事会を開催し15名が出席。会議ではサマーキャンプについて話し合わせ、幹事からは「激流下り」「釣り大会」「バトミントン」など意見が出されたが、誰もが一緒に楽しめる参加出来るものを企画するという事で、「キンボール大会とバーベキュー交流会」に決定。9/10に西伯郡「緑水園」で開催することとした。この他、スプリングセミナーの総括も実施。日曜日開催の是非を問う意見も出され、開催日や場所について、多くの人が参加出来るように今後の行事を企画する事を確認した。



With山陰結成まであと1年

2011.6.25
With第2回設立準備委員会

With山陰設立準備委員会は、第2回準備委員会を松江市労働会館にて開催。準備委員8名が出席。今回は、準備委員からの「男女平等参画について知りたい」という要望を受け、JAM本部より宮本副書記長を招き、「男女平等社会」の必要性や連合やJAMの「男女平等参画推進」の取り組みを紹介。また、委員からは「賃金格差がある中で女性のモチベーションは上がらない」といった意見もあった。協議事項では、2012年11月をWith山陰の設立目標と決め、タイムスケジュールや今後の準備事項の確認と意識合わせが行なわれた。



松江市議増員選挙はJAMの戦いだ。



8月14日告示、21日投開票で実施される松江市議会議員増員選挙は、2名枠に対し候補者乱立による大激戦が予想される。組織内議員である森本ひでとし氏も、危機感を強め連日必死の支持者拡大活動を展開中だ。

森本ひでとし市議の誕生には、陰しく長い「いばらの道」を進まなくてはならない。残された時間に総力結集し、必勝への「サクセスロード」を切り開け!

東出雲町在住の知り合いにお声かけを。
最後まで支援の輪を広げよう!



総結集

一日も早い復旧へ“がんばっぺ東北”

2011.6.3~7.18 JAM被災地救援ボランティア「第9・10・14クール派遣団」

東日本大震災発生から、5ヶ月が経過したものの依然復旧出来ていない被災地の現状に驚いてしまう。JAM山陰から復旧・復興支援として、新たな派遣団が救援ボランティア活動へ参加した。6/3~第9クールに、石賀裕貴さん(日庄ST)と高橋和也さん(神鋼機器工業)、6/11~第10クールに、土谷祐太さん(ホンザキ電機)と福井智彦さん(日庄ST)、7/10~第14クールに後藤真也さん(明治製作所)と川野書記長(JAM山陰)が参加。

一人の力は微力でも、被災者の方々には貴重な人手として大変喜ばれている。多くの仲間が一日も早い復旧へ、今日も活動を続けている。被災地のみなさんは、とても優しく力強い一生懸命に生きていく姿に心を打たれる。ボランティアに参加したメンバーは、被災地のみなさんから大きな勇気と元気をもらい「ボランティアに来てよかった」と感動する。

がんばっぺ東北。がんばろう日本。

がんばれ東北！ Play for Japan！

高橋 和也さん (神鋼機器工業労組)

連合本部に、全国から集まった100名ほどのボランティアを見て「よし！頑張るぞ」と自分の中で気合が入る。福島県に近づくと、自衛隊・警察車両とすれ違い、ナンバーで全国から応援に来ている事が分かった。作業では、泥まみれになった家族の写真や、クリスマスツリーの飾りを拾っている時は、今年は家族揃って出来るのだろうかと思うと涙が出てとても辛かったです。震災から3ヶ月経ちましたが、ボランティア継続の必要性を改めていく事が大事だと思いました。周りの人にも、ボランティアの大切さや震災の恐ろしさを伝えていきたいです。そして、5年後位にみんなの力で気仙沼がどう変わったか訪れてみたいと思います。これから未来を背負っていく子どもたちの思いを聞いたり遊んだりして、少しでも心のケアも出来る機会があればよかったです。最後に林団長を始め参加したボランティアのみなさんお疲れ様でした。

活動を通して「継続の必要性」

福井 智彦さん (日庄ST労組)

震災からちょうど3ヶ月「現地で被災者の方と復興を目指したい」という思いで、自分の目で見た現実、それを多くの人に伝えられれば、更なる復興支援に繋がるのではと参加しました。作業は瓦礫の撤去などを行ない、ハードな作業でしたが、他のメンバーも同様、手を抜いて作業をする人は一人もおらず、限られた日数で精一杯活動することが出来決して後悔などはないのですが、完全な復興へはまだまだとても長い時間がかかると感じました。被災地に必要なのは“継続した”ボランティア活動だと私は強く認識しました。このことを一人でも多くの人に伝え、継続したボランティア活動の一端を担うことができれば幸いです。最後に、私をボランティア活動に参加させてくれた日庄労組の執行部の方、快くボランティア活動への参加を許可していただいた私の上司に感謝いたします。有難うございました。

がんばろう東北！

石賀 裕貴さん (日庄ST労組)



宮城県本吉地区にボランティア活動に行きました。実際に目の当たりにした被災地の風景は、テレビの映像などで見るとより残酷で、生々しい風景が広がっていました。海沿いの家は津波により流されてしまい家の土台のみ残っている状況でした。海から遠い場所でも津波が川を逆流してきて川が氾濫し家が浸水や半壊し、被害を受けた方などもおられました。ボランティア活動としては、主に民家の瓦礫撤去などを行い1軒あたり2~3日を要するため、今回1週間のボランティア活動期間では、3軒の民家しか作業が出来ませんでした。途中、被災された方とお話をする機会があり、被災した時の状況から3カ月経って未だ何ら変わらない状況だと聞きました。話をしていくうちに笑顔になってもらえることが1番のボランティア活動だと感じました。今後も、多くのボランティアの人達の協力により、1日でも早い復興を願っています。

東北地方が復興するその日まで

土谷 祐太さん (ホンザキ電機島根労組)



ボランティアに参加するにあたって生半可な気持ちではダメだと、自分に言い聞かせながら参加しました。現地に行くと、想像以上の状況が自分の目に飛び込んできて、自分が出来る事を精一杯やりたいという思いが込み上げて来ました。

現地の人は皆さん大変だとは思いますが、明るく生活しておられて、僕たちに、「ありがとう」と声をかけてくれ、大変勇気づけられました。町で出会ったおばあさんは、自分も苦しい思いをされているにもかかわらず、僕たちの現地での生活の心配をしてくれ、全国から来ていることに大変感謝して、涙を流しておられました。その時、日本全国の人々が、東北地方の事を考えながら日々の生活を送り、何か出来る事はないかと考えながら、東北地方が復興するその日までみんなで手を取り合い、一つになってやっていかなくては行けないと感じました。

誰かの為に役に立つ喜びを

後藤 真也さん (明治製作所労組)



やる気と不安の入り交じる中、少しでも被災地の役に立てる様に一生懸命活動しようと決意して出発しました。しかし、震災から4ヶ月経過したとはいえ、被災地はまだ大変な状況で、テレビで報道されている風景が目前に広がり、もの凄く衝撃と悲しみを受けました。作業は家屋内外のガレキ撤去及び清掃や田んぼ・公園の汚泥除去等様々で、梅雨明けした炎天下で滝のように流れる汗を拭いながら無我夢中で作業しました。今回一緒に活動した、素晴らしい仲間の皆様と、共に一致団結して活動した一週間は私にとって大変貴重な経験となりました。被災地の方々への前向きに生きる姿に心を打たれ、「ありがとうございます」等のお礼の言葉に、誰かの為に役に立つ喜びを深く感じました。

このボランティア活動に参加して得た経験を、今後の生活や組合活動に役立てていきたいと思っています。

あつ動いた。 2011.7.23 JC島根地協「親子ものづくり体験教室」

JC(金属労協)島根地協と連合島根金属部門連絡会の共催で、2011年度「親子ものづくり体験教室」が出雲市小境町のサンレイクで開催された。島根県内の金属産業で働く親子31組84名が参加し、ペットボトルを利用したソーラーカーづくりを体験した。



堀内幹夫代表(JAM山陰)は、「3回目となる親子ものづくり教室には参加希望者が年々増加。今年は80名を超える方々に参加してもらった。この体験を通じ親子の触れ合いと私たちが働くものづくり産業への関心が高まれば嬉しい」とあいさつ。参加者らは、持参したペットボトルを利用したソーラーカー作りを親子で体験。組み立て、配線が完了しスイッチを入れると車輪が回転。会場のあちこちから「動いた」と歓声が上がっていた。製作後は外で「ソーラーカーレース」を実施、1等賞品の図書カードをめざして子どもたちも真剣そのもの。夏休みの半日ではあったものの、親子で物を作る共同作業によるふれあいの時間、完成した時の子どもたちの笑顔など、充実したものづくり教室となった。

着実に前進させよう 2011.7.27 シニアクラブ「第1回三役会議」

JAM山陰シニアクラブは、第1回三役会議を招集。6月中旬に実施した退職者組織の「単組実態ヒアリング結果」を踏まえた今後の課題と方向性と、2012年度方針の検討を行なった。内田敬会長は「先月実施したヒアリング結果から進め方が見えてきた。着実に前に進めるために、知恵を出し合いたい」とあいさつ。会議では、シニアクラブ加入促進に向けた2つの柱が確認され、①地協シニアクラブを発足し各単組執行部OBの加入を呼びかける、②モデル労組を設定し退職者組織を発足させる事を、2012年方針として取り組み加入者拡大を図る。また、会費の設定や規約の整理は、事務局で案を策定し検討する旨を確認。今後の日程として、第2回総会は9/7開催が決定した。



歴史ある労使関係で難局打開

2011.7.8 出雲地協「第23回労使会議」



出雲地協は、島根ワイナリーにて「第23回労使会議」を開催し、10単組から労使25名が参加。山岡議長は「これまで労使のご理解・ご協力と歴史を築いてきた。取り巻く情勢は予断を許さない。今こそ、労使一体となってこの難局を乗り越えていきましょう」とあいさつ。

講演会には精神科医師の坂野真理氏を招き「心の健康について」のテーマで、メンタルヘルスの対応とポイントを学んだ。坂野氏は「やる気や気持ちの浮き沈みは誰しもある。問題は沈んでいる期間が2週間以上は危険信号。マイナス思考から脱出するためには休養が一番」と呼びかけた。参加者からは「いろいろなケースの説明を受けることが出来て参考になった」や「今後の職長教育に活用したい」などの感想。実際の職場における対処を学べたことや、わかりやすい説明と大変好評だった。

森本氏の支持者拡大へ全力で

2011.7.11 松江地協「第6回単組代表者会議」

松江地協は、第6回単組代表者会議を三菱農機労働会館にて開催。8単組から9名が出席した。細木議長は「松江市議増員選挙では組織内議員の森本ひでとしを必ず当選させなければならない。厳しい闘いが予想されるが、全力で取り組んで欲しい」とあいさつ。選挙の取り組みについて岩谷事務局長から情勢報告の後、具体的な取り組みが説明された。特に、支持者拡大では「当選には最低2500票が必要。この票を獲得する為には、支持者カードや訪問活動を、在町組合員をはじめ親戚・友人・知人まで支持を広げて頂きたい」と強く要請した。

この他、各単組の企業状況報告、今後の行事予定などが報告された。

